

ビブリア

発行 いわき市平上荒川字長尾30
福島工業高等専門学校
編集 図書委員会 ビブリア編集部
平成元年 10月31日

福島高専図書館報第67号

巻頭言



佐藤憲男

ビブリアも今回で67号を数えることになった。この機会に、初心にもどり、創刊号を再読してみた。発刊の辞によれば、「ビブリア」とは、ラテン語で「本」という意味であるとしるされている。昭和46年6月に創刊されたので、まもなく「成人」に達するまで成長したことになる。刊行当時、情報媒体は、主に活字であったから、本への依存度も現在より高く、従って、図書館広報がビブリアと名付けられたのもうなずける。もちろん、読書への道しるべがその原点に据えられていたことは、創刊号の示すとおりである。

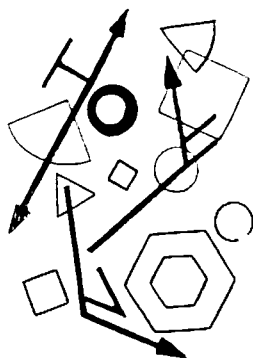
近年、情報化社会の進展に伴い、情報伝達手段は多様化し、日々大量の情報が生みだされている。このような状況の下で、情報の洪水に押し流されることなく、主体性をもって生きていくためには、思考力や判断力が大切な能力となってくるであろう。

周知のように、情報伝達手段は主として活字型と映像型に大別されるが、最近の大脳生理学の進歩は、情報の型の相違が脳の働きに与える影響を解き明かしてきているようである。それによると、「思考する」ということは、右脳が描く画像（イメージ）左脳が観察しながら記号化し、言語化する

作業であると言われている。この言語化する働きを強化するためには、活字型情報＝本に接する機会を多く持ち、左脳の言語中枢をトレーニングすることが不可欠だという。さらには、想像力をめぐらして本を読むことが、左右脳の連携プレーを円滑にする潤滑油の役割を果たすことも知られているという。

これに反し、テレビに代表される映像型情報は、情報量（映像、音声、色彩）が高密度なため、脳は情報伝達速度についていくことができず、伝達された情報は未整理のまま再現性も低く、想像力を働かす余裕など生まれ得ないとのことである。脳の働きという点だけにかぎっても、本を読むことの意義は大きいように思われる。豊かな想像力を培うような本が脳を活性化し知性の維持を保障するものであると言えないだろうか。

体験を通じて理解する－一体でわかる－ということが何事を行うのにも必要であるが本を読むことで自分の世界が変化したという体験がもてれば、自分が大きくなったことを知るに違いない。バランスのとれた脳の働きが、思考力、判断力などの出発点であることを考えるとき、広報「ビブリア」がより一層発展することを願うものである。



目次

巻頭言	佐藤憲男	・・・1
図書・文献は幸福を生み出す	寺門龍一	・・・2

図書館改善計画のあらまし	土井威男	・・・3
新着図書リスト	図書係	・・・5
リサイクル文庫発足	図書委員会	・・・9

図書・文献は幸福を生み出す

校長

寺門育一



大学の助手として勤務したばかりのことである。友人が訪ねて来た。彼は父親が始めた電機関係のいわゆる下請けの町工場で、父親の片腕として技術を取り仕切っていた。

彼の言うには、納入した部品の機械的な強度が弱いので、何とか補強したい。その補強策は幾つか考えられるのだが、どれを選ぶかに当っては、相手を納得させるだけの理論的根拠が必要である。ついては、各補強策について、理論計算をしてその優劣を明らかにしてくれ、というのであった。

専門の電気ならともかく、機械の難問の解決は至難であるが、友人の頼みとあらばやむをえないと、さらに人に頼んでみようと考えた。

幸い、同期生が機械工学科の助手をしていたので早速相談に出向いた。一応の話しをすると、さすがに専門である。次のような答えが返ってきた。

それは、機械工学科の卒業研究発表会だったという。学生の発表に対して、ある教授が、その強度計算の考え方には間違いがある、と指摘されたそうである。今問題になっている強度計算は、その学生の内容と良く似ているので、その教授に聞けば教えてくれるだろう。一人で行きにくければ連れて行ってやろう、ということで、恐る恐る伴われて古い木造の教授室へ伺った。

その教授は、後に学部長そして学長をされた方である。冷酷にも、同期生は、紹介するとさっさと引き上げてしまった。話を聞き終わった教授は、電気でもそのようなことが問題になる

のかといわれ、それと同じような問題の解答が書いてある本がある。その本は図書館のどこの棚のどのあたりにある。それを読めばおそらく解決できるだろう、と教えてくれた。

その時は、少し意外だった。具体的な計算方法なども聞けるかもしれない、という期待も幾分かはあったからである。けれども、その考えが誤りであることは直ぐに分かった。その本を借り出して読みたどってみると、それを理解するために別の本が必要になり、たちまちにして机上は本で埋もれた。到底短時間の説明で理解できる内容ではなかったのである。

このような苦心努力を重ね、どうにか結論を出すことができた。それが、当初予想した優劣と正反対であったことは、誠に不思議であった。学問の威力を思い知らされた感じであった。

そのことがあってから、簡単な気持ちで人を頼りにすることは控え、教えを乞う前に、図書館にこもって文献を調べることにした。そういう態度で臨む図書館は、まさに宝庫であった。自分の知識の無さを、回を重ねるごとに痛感するのであった。

殊に、専門外のことについては、それまでに出会ったことのない新しい考え方に触れ、ひっそりとした図書館の奥の書庫の片隅で、深い感銘にゆさぶられることもしばしばであった。

このような目的で図書を利用する場合、一冊の本を初めから終わりまで読み通すことはほとんどなかったといってよい。たまに、新しい数学なぞを勉強してみようと、一頁から読み始めることもあったが、大抵は、難解で途中で放り出すか、あるいは、そこまでの勉強で得られた新しい思想によって、自分が抱き続けている未解決の問題を見直してみたくなくて、勉強はそこで打ち切って方向転換ということが多かった。

最近、学生諸君の図書館の利用回数が減っていると聞く。なぜそうなのかは分からないが、一番の理由は、多分、利用する必要がないということであろうと想像する。確かに、授業で教わったことをしっかりと身につけていれば、優秀な学生であり、それで将来十分に伸びてゆけるのであれば、図書館を利用する必要もないし、また時間も無駄である。現実には、その傾向が強いこともまた事実であろう。

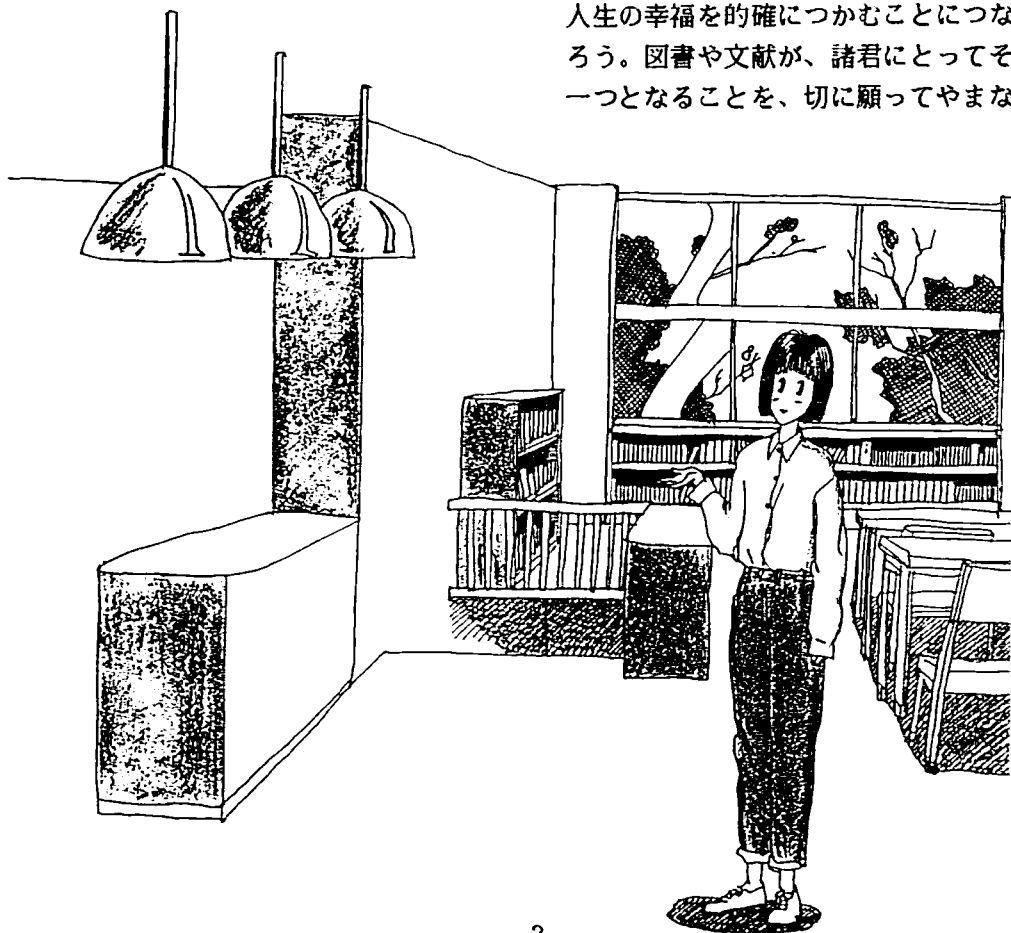
ただ、図書館をこのまま遊ばせて置くことは何とももったいない。宝島がそこにあるのに、宝を掘り出そうともせず、みすみす通り過ぎてしまっているようなものである。そこで、学生諸君に次のことを訴えたい。

本を初めから終わりまで読もうとしないこと。本は眺めるものである。図書館に足を踏み入れて、借り出して持ち帰るには重くてどうにもならないような、例えば、分県地図、科学大辞典、

美術全集、漢和辞典、市町村史、会社年鑑、現代用語解説、あるいは職員録のようなものでも何でも良いから、手当たり次第眺めて見ることである。そこには、自分が旅行したことのある懐かしい地名、知っている人の名前、宇宙の不思議、生物の神秘、その他ありとあらゆることの中で、諸君の関心を呼ぶものが必ず潜んでいるはずである。

それを繰り返すうちに、さらに詳しく知りたいことも出てこよう。それが専門と係わりの深いものであれば、それは幸いなことかも知れないが、むしろ全く別の世界である方が、長い一生にとっては、プラスともいえよう。そうなれば、あとは宝の山を掘り出すだけである。

この世において、人間の精神を安らかに満たしてくれる多くのものの中で、図書や文献は最高に素晴らしいものであると言い切ってよいと思う。美しく清らかな精神の充足を果たしてくれる何ものかに、より若いうちに出会うことは人生の幸福を的確につかむことにつながるであろう。図書や文献が、諸君にとってその重要な一つとなることを、切に願ってやまない。



図書館改修計画 のあらまし その1

図書館長 土居威男



1. 図書館改善の必要性

高専図書館は学生諸君の学習を支援し、また人間性豊かなエンジニアになるための各種情報を提供するところに存在意義がある。しかるに学生の図書館利用は長期低落を続けて久しい。この原因はどこにあるのか。また学生の利用したくなる図書館にするにはどうすればよいのであろうか。

図書委員会では、学生図書委員の協力も得て、アンケート調査や懇談会で学生諸君の声も聞きながらこの2年間この問題に取り組んできた。蔵書スペースの確保とか、本以外の情報源の収集とその利用設備の設置なども考慮した長期的展望のもとに図書館改善計画を立案し、本年度文部省に予算要求書を提出した。

本号では、予算総額約7700万円のこの改善計画の概要を報告し、次号以下で目玉とする改善計画を順を追って説明してゆきたい。

2. 主な改善計画とその概要

1) 快適な読書空間の提供

2F 閲覧室をゆったりした居心地の良い場所とする。床、壁など内装を改修し、室内装飾（絵画、生花など）にも配慮する。照明や冷暖房設備も改善したい。

2) 本と人との一体化

授業に密着した図書、一般教養書、新刊書などは2F 閲覧室に常備し、1F 書庫との往復をできるだけ少くする。開架式書架や閱

覧台、椅子なども改善する。本を探しやすくするため、コーナー分類などレイアウトを改善し、本と人との一体化をはかりたい。

3) 閲覧室へのカバンその他の持込み自由化

「Book detection system」を入口に設置し、閲覧室に自由に出入できるようにする。

4) 図書検索システムの構築

Key Wordによって欲しい本が直ちに探せるようにする。当面、端末は閲覧室内に設置するが、将来的には学内ネットワークにより学内どこからでも検索できるようにしたい。

5) AVコーナーの整備・拡充

個人用ビデオデッキ10台を設置するとともに、AV資料の増強を計る。

6) 開館時間の延長

早朝、あるいは夜間の開館を検討する。

7) 貸出・返却業務の簡素化

電算化により、手続きの簡素化を計る。

3. 図書館改善スケジュール

前項の改善計画には多額の予算を必要とし、また準備作業にも多くの時間と労力が必要である。平成2年度の予算のつき方によって詳細な実行計画表を作成し、優先順位に従って実施してゆきたい。その際学生諸君にも図書委員を中心にして協力をお願いすることになる。いろいろな図書館に対する要望を、今後ともどしどし寄せてくれると共に、全学生がともかく図書館へ立寄り、図書を借り出してくれることを期待している。

新着図書案内

(平成元年9月末日現在)

総記

ブックページ 本の年鑑

ブックページ 刊行会

東洋文庫

遊歴雑記初編

平凡社

和漢三才図会

魏晉南北朝通史 内編

真隣風土記 アンコール期のカンボジア

中国古代の祭礼と歌謡

幕末政治家

アラビアンナイト

広益俗説弁

東洋における素朴主義の民族と文明主義の社会

岩波講座転換期における人間 1 生命とは

岩波書店

3 心とは

生き方と価値観の指針を提示する

新釈漢文大系 73 唐宋八大家文読本

明治書院

田中正造選集 1,2,3,5

岩波書店

哲学

岩波講座東洋思想 3 イスラーム思想

岩波書店

7 インド思想

11 チベット仏教

16 日本思想

日本近代思想大系 4 軍隊 兵士

岩波書店

9 憲法講話

17 美術

20 家と村

波多野精一全集 1,2,3,4

岩波書店

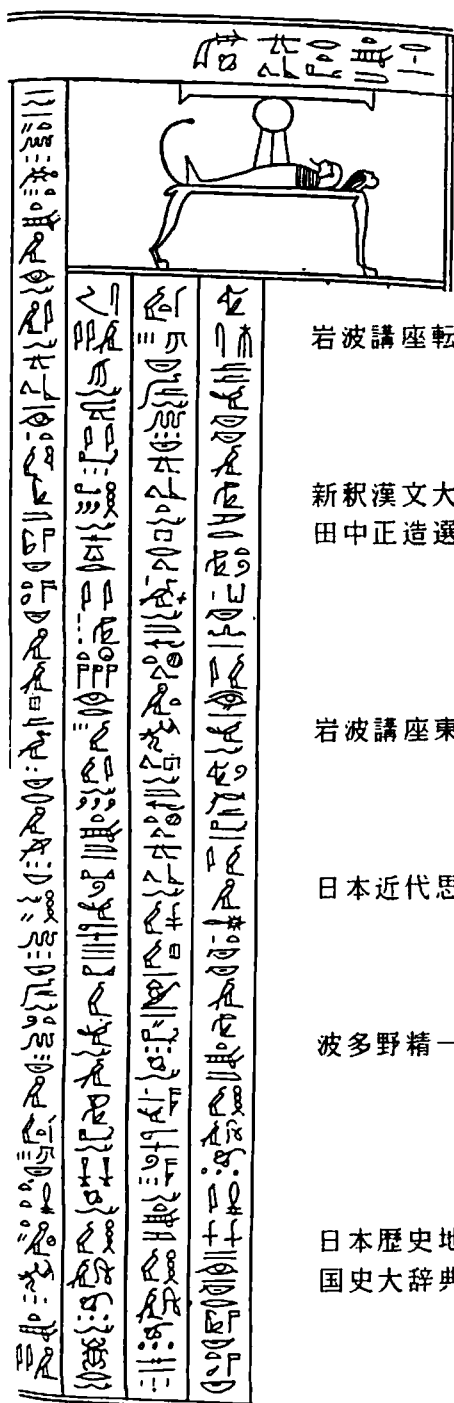
歴史

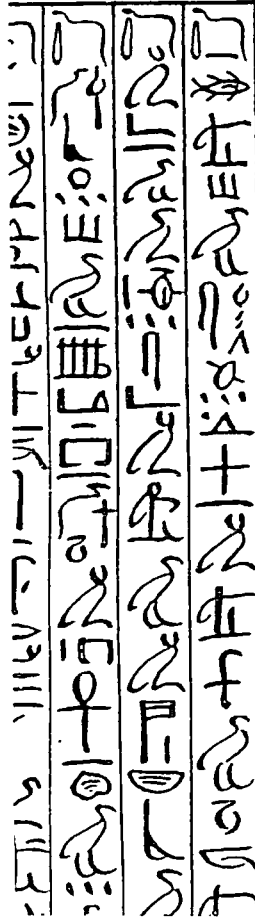
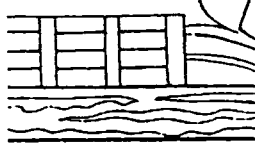
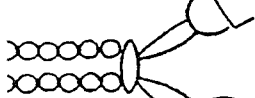
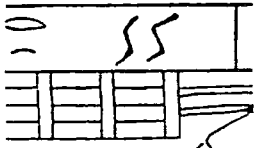
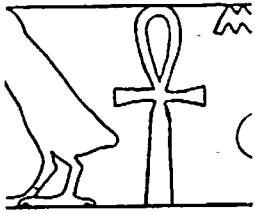
日本歴史地名大系 21 岐阜県の地名

平凡社

国史大辞典 10

吉川弘文館





東アジアのなかの日本歴史 7 明治の経済発展と中国 六興出版
 11 日本の大陸政策と中国東北
 12 中国人の日本研究史

大系日本の歴史 14 二つの大戦 小学館
 15 世界の中の日本

昭和二万日の全記録 1,2,3,8,9 講談社
 1 日きざみの「日録」全ドキュメント・スタイル

天皇そして昭和 朝日新聞テーマ談話室編 朝日新聞社
 バブーフの陰謀 柴田三千雄著 岩波書店
 フランス革命 柴田三千雄著 岩波書店
 革命史研究の第一人者が語り下ろすフランス革命入門

資料フランス革命 河野健二編 岩波書店
 図説フランス革命 芝生瑞和編 河出書房新社
 目でみる大革命の全貌。収録図版290点。

紀行フランス革命200年 本城靖久他著 新潮社
 角川日本地名大辞典 15 新潟県 角川書店
 33 岡山県

社会科学

現代政治学叢書 4 革命 東京大学出版会
 17 戦争と平和
 19 世界システム

日本経済史 3 開港と維新 岩波書店
 6 二重構造
 8 高度成長

世界統計年鑑 1985/86 国際連合統計局編 原書房
 変わりゆく婦人労働 高橋久子著 有斐閣
 世界の女性史 1 ~ 19 評論社
 日本民俗文化資料集成 6 巫子の世界 三一書房

自然科学

離散数学 斎藤伸自他著 朝倉書店
 コンフリクトの数理 岡田憲夫他著 現代数学社
 物理学演習 大槻義彦著 学術図書

物理学 One Point 25 物理便利帖
神経回路と情報処理 福島邦彦著

共立出版
朝倉書店

工学

新体系土木工学 47 土構造 技報堂出版
56 都市計画

立体横断施設技術基準・同解説 日本道路協会
自動車とマイコン 壺井芳昭著 朝倉書店

電気・電子計測 菅博著 朝倉書店

電気電子応用計測 高木相著 朝倉書店

順序回路論 当麻喜弘著 昭晃堂

電子情報回路 1 樋口龍雄他著 昭晃堂

多値情報処理 樋口龍雄著 昭晃堂

岩波ソフトウェア科学 2 プログラミングの方法 岩波書店

3 アルゴリズムとデータ構造

標準MS-DOSハンドブック アスキー*

MS-DOS 3.1ハンドブック アスキー*

MS-DOS Ver.3.1の拡張機能を徹底解説

芸術

講座20世紀の芸術 1 芸術の近代化 岩波書店

2 芸術と社会

3 政治と芸術

ケンブリッジ西洋美術の流れ 1～8 岩波書店

ビゴー素描コレクション 1 明治の風俗 岩波書店

2 明治の世相

日本人の生活・風俗を活写したスケッチ集—風刺画の最高傑作

魔天 天野喜孝画集 朝日ソノラマ*

作者の幻想を余すところなく伝える豪華画集

加藤直之画集 1,2,3 朝日ソノラマ*

SFイラスト界の第一人者の作品集

監督の条件 今泉恂之介著 東京出版*

現代スポーツ論 中村敏雄著 大修館書店*

語学

- 漢字講座 2 漢字研究の歩み
11 漢字と漢字問題

明治書院

文学

- 蒼黒いけもの 岩村賢治詩集 朝日ソノラマ
影歩む港 菊地秀行著 徳間書店
タイタニア 1 疾風篇 田中芳樹著 徳間書店
タイタニア—それは、銀河系の平和に影をさす猛き霸王

- 銀河英雄伝説 田中芳樹著 徳間書店
星々の海を往く英雄たちの叙事詩

- 日本の美と伝統 西山松之助著 岩波書店
実践的学風から生まれた文化史随想

- 昭和文学全集 7、12、32 小学館
武者小路実篤全集 9、10、11 小学館
野上弥生子全集 15 日記 岩波書店
キリマンジャロ・マシーン レイ・ブラッドベリ著 早川書房
火星の廃墟、消えゆく田舎町—不思議な温もりを持つ10編

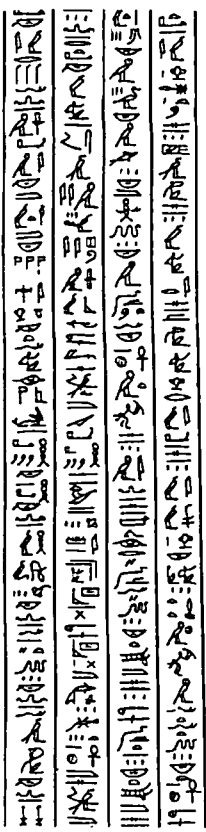
岩波新書

- ゴッホ 星への旅 上下 藤村信著
突然の死に至る激しい燃焼の軌跡

- 絵でみるフランス革命 多木浩二著
略奪の海 カリブ 増田義郎著
海賊、砂糖、奴隷—イギリスとスペインの壮大な覇権抗争

- 秘境・崑崙を行く 大場秀章著
日本経済図説 宮崎勇著
激しく変貌しつつある日本経済の全体像

- 暮らしの中の太平洋戦争 山中恒著
メキシコの輝き 黒沼ユリ子著



私の昭和映画史 広沢栄著
日本外交 浅井基文著
たたかう映画 亀井文夫著
やきもの文化史 三杉隆敏著
中国陶磁の伝統と海上交易の歴史を描く

歌舞伎のキーワード 服部幸雄著
言葉から読む江戸文化の粋と伝統

豊かさとは何か 暉峻淑子著
モノとカネの支配を越えてゆとりある地球的豊かさへ

毛沢東 竹内実著
報道写真家 桑原史成著
フラインターから激動する現代史を追う

愛と美と文学 中村真一郎著

❖ 即ち学生の購入希望図書です。

お知らせ

リサイクル文庫発足

図書委員会

かねてより準備中であつたりサイクル文庫が去る10月1日、学生ホール入り口近くの一角にオープンしました。スチールキャビネットに単行本、新書、文庫本等あわせて約200冊でのスタートです。すでにかんりの本が借り出されているようです。これらの本は、表紙または見開きのページに「リサイクル文庫」の印が押してあるだけで、いっさい管理されていません。持ち出し自由、返すも返さないも自由ですが、その趣旨からして、できるだけ多くの人に

利用してもらいたいと思います。

このコーナーの整理は、学生図書委員にお願いすることになりますが、利用者みんなが、整理・整頓に心掛けてくれよう希望します。

この文庫は、教職員、学生すべての好意によって成り立っています。もし、みなさんの身の回りに、眠っている本がありましたら、ぜひ図書館入り口の「リサイクル文庫受付箱」に入れてください。どんな本でも大歓迎です。